

やすらぎ

No.54

病院理念：安らぎと幸せ

「和田っち」について



堀切 靖

私は平成18年から始良病院に勤務し、もう10年経ったところですが、私より長いのは、山畑院長と新里診療部長と和田っちです。今回は、この和田っちについて調査研究を行いましたので、若干の考察を加えて報告します。

今回の報告に当たって、和田っちに「お前のことを書くからね」と言うと、「僕は褒められて伸びるタイプだから、いっぱい褒めてね」と言うので、なるべく褒めながら報告したいと思います。

まず、和田っちはとてもいい人です。ほとんど怒ったところを見たことがありません。当直をかわってほしいと頼んだり、鑑定を頼むことがあります。ほとんどの場合、「わかったー」とか「了解です」とか言って、快く引き受けてくれます。少し嫌な時でも、頼りにしてるんだから頼むよーとごり押しすると、がっくりとうなだれながらも引き受けてくれる、とても優しい人物なのです。

そして、皆さんもよくご存知の通り、特に若い女性には優しいのです。いつ、どこに、何才の女性が新しく勤務し始めたのか、院長よりも早く知っているのです。そして、呼んでもいないのに、「僕のことを呼んだ？」と若い女性のところに行き、少し笑いを取りながら、何気なくメンタルケアを行っているのです。院長がメンタルヘルスの講義をしますが、それよりも、和田っちの全ての職種の現場に顔を出し、メンタルケアを行っている方が素晴らしいと私は思います。

さらに、和田っちは患者を治す腕前も凄いです。ちょっと患者を診るだけで治っていくのです。あまりにも簡単に治ってしまうので、和田っちは、時々、患者のことを忘れてしまいます。しかし、それも和田っちが凄すぎるから仕方がないことだと私は思うのです。

物持ちもとてもいいですよ。和田っちの乗っているあのマーチは何年物でしょうね。時々、古い車に格好良く乗っている人がいますが、和田っちの場合は、そんなに格好をつけることもなく、なぜか後部座席の方が下に傾き、今にも故障しそうなマーチを、職場では屋根付きの駐車スペースに毎日止めて大事にしています。



【やさしい「和田っち」先生です】

以上のように、和田っちを調査研究したところ、とても優秀で人にも物にも優しく、始良病院にはなくてはならない人材であることが判明しました。

考察です。和田っちは副院長室で勝手にインターネットをしたり、寝ていたりすることもあります。始良病院のために、それぐらいのことは許してあげないといけないと思いました。

地域医療連携室 精神保健福祉部門

平成28年度第2回地域ネットワーク連絡会 を開催しました！

当院では、地域ネットワーク連絡会を、関係機関との連携や相互理解を深めることを目的として開催しています。

今年度は、第1回目の地域ネットワーク連絡会を10月に大島支庁で行いました。

例年開催している近隣市町の関係者を対象とした「地域ネットワーク連絡会」は、平成29年3月1日(水)、当院視聴覚室で開催しました。始良伊佐地域振興局管内にある精神科医療機関・市町・警察・消防・相談支援事業所や鹿児島市(保健所・生活保護担当課)、県の保健所・生活保護担当課等、関係機関の皆様にご連絡をお知らせしました。

内容は、山畑院長が「精神疾患と精神障害者の対応」と題して講話を行い、当院地域医療連携室 恵島副室長から「受診相談に際してのお願い」をしました。また、参加申込みの際に提供された事例をもとに5つのグループに分かれて検討しました。

年度末にもかかわらず、多数の参加申し込みをいただきましたが、会場の関係で、参加人数の調整をお願いすることになり、申し訳ありませんでした。



院長の講話は、精神疾患の種類や特徴、またそれぞれの疾患に応じた接し方など 約1時間でしたが、アンケートの感想欄でも「短い時間で非常にわかりやすい説明だった」「とても勉強になった」と非常に好評でした。

事例検討では、それぞれの機関がどのように対応するかを出し合い、意見を聞き、各機関の対応や

役割、業務の内容や連携の大切さを再認識したところです。

来年度も皆様のご意見を参考にして計画していきたいと思っております。

関係者の皆様、今後ともよろしくお願ひいたします。

活動報告（8病棟リハ）

みなさんこんにちは。8病棟のリハビリ活動について報告をしたいと思います。

8病棟は男子閉鎖病棟です。病棟内では日々リハビリ活動が行われています。病棟内リハは、生活空間の一部であるロビーで行うことで関心を持ちやすく緊張感なく参加できます。治療効果として、精神面では病的世界から注意をそらし他者と過ごすことによる、現実体験の増加や楽しみの機会が得られます。また、緊張感の緩和や他者との交流の機会にもなります。身体面では、慢性的なパターン化された病棟生活・離床傾向の改善や周囲への関心を持ち孤独感を癒し仲間作りの機会となります。個々で取り組む病棟リハと集団で行う病棟クラブがあり、多くの患者さんが参加しています。

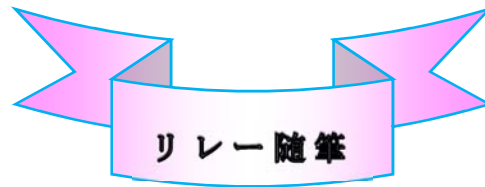
また、8病棟では日々のリハビリ活動以外にも季節ごとに応じた活動を行っています。

1月に行われた新年会についてお話しします。

今年は1月25日に病棟ロビーで行われました。参加者は30名ほどで普段よりも多くの方が参加されました。病棟リハでも人気の高いカラオケ、季節的な福笑い、ピンゴ大会などを行いました。ピンゴ大会にはほぼ全員の患者さんが参加されました。患者さんからは「良かった」「楽しかった」「ありがとう」などの声が聞かれました。みなさん普段以上の笑顔で参加されていたので、私達もとても嬉しくなりました。季節ごとのイベントは季節感を味わいながら、日々の生活にメリハリを与えると共に入院生活の意欲向上にもつながります。

患者さん一人ひとりにやすらぎと幸せを願って、日々頑張りたいと思います。





リレー随筆

5 病棟

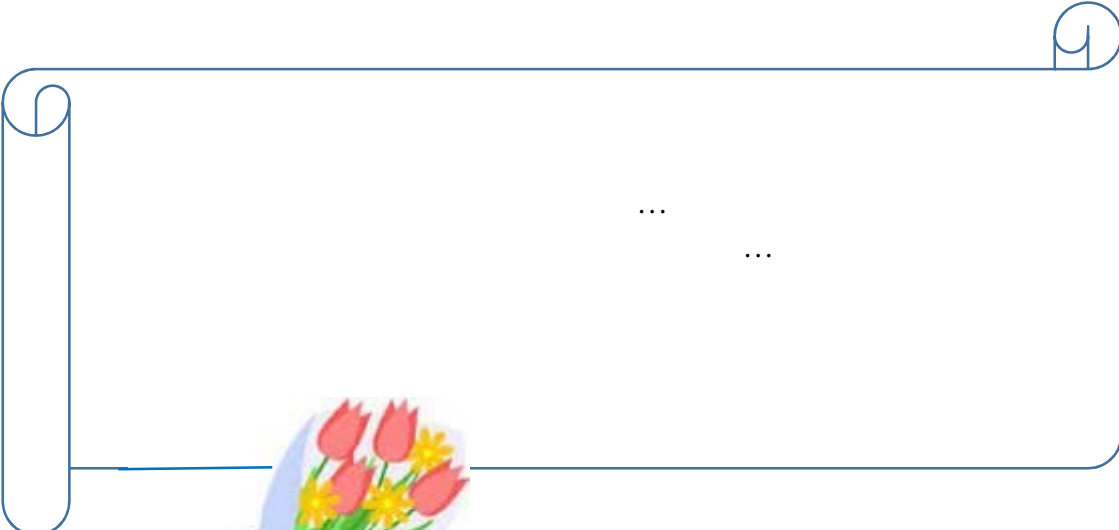
3月はそれぞれの出発とお別れの季節
今回は5病棟の素敵な看護助手Tさんに寄せる思いをしたためてみました。

気が付けばもう3月、まもなく桜の開花。あちこちで花が咲き華々しい季節になります。

それとは裏腹で異動の発表もあり、なじみの方々とお別れは本当に淋しくてつらいものです。

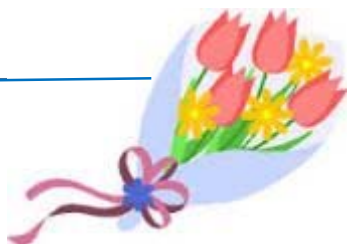
5病棟では5名のすばらしい看護助手さんが、日々の細々とした業務をこなしてくださり非常に助かっており、感謝の気持ちでいっぱいです。その中のTさんは、当院での20日雇用の希望が叶わず、転院？されます。仕事もテキパキ、患者様を大切に、特徴を把握して対応されるので多くの患者様に慕われています。意思疎通が難しいI氏も、入浴の時など彼女を捜す程です。病棟が騒々しく、患者様のパワーにスタッフが疲弊して、遅れて昼食に入ると、手作りのクッキーやケーキなど優しい笑顔でそっと差し出してくれます。白和えなど絶品の料理で何度癒されたことでしょうか。料理に関するさらなる資格を取りたいという夢に向かって、前向きに歩みだす素敵でカッコいい彼女の出発を拍手で見送りたい気持ちと、是非、またここ5病棟に戻ってきて一緒に働いてほしいという気持ちが交錯しております。

Tさんにメッセージを戴きました。



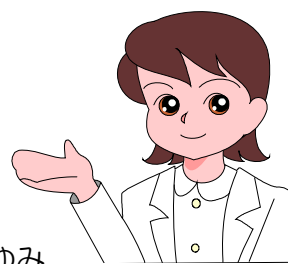
約3年間、看護助手として働かせて頂きました。
5病棟でのお仕事、本当に大好きでした。
入浴介助、食事介助、シーツ交換...すべてが思い出です。
患者さんも含め、看護師さん、助手さん...
「人間」に恵まれた3年でした。
本当に、本当にありがとうございました。

5病棟看護助手 K・T



薬局情報

～花粉症と治療薬～



春を迎えて花粉症がピークとなり、くしゃみ、鼻水、鼻づまりや目のかゆみなどの症状に悩まされている方は多いと思います。今回は花粉症について紹介します。

花粉症とは

花粉が体内に入ることによって生じるアレルギー疾患の総称で、主にくしゃみ、鼻水、鼻づまり（アレルギー性鼻炎）や目の充血、かゆみ（アレルギー性結膜炎）などの症状が現れます。症状が強いときは、鼻で吸収されなかった花粉が鼻からのどへ流れ、のどのかゆみや咳などの症状も出ます。

花粉症の治療

花粉症の治療には、掃除等による花粉の回避薬物療法、手術療法があります。

花粉の回避

マスクや眼鏡、花粉が付着しにくい洋服を着用したり、花粉飛散情報を活用したりすることでアレルギーの原因となる花粉に接触しないようにします。

薬物療法

花粉症の症状をやわらげる対症療法と、根治療法としての抗原特異的免疫療法があります。

・対症療法

鼻水、鼻づまり、かゆみなどの症状を速やかに改善します。対症療法は花粉が飛び始める少し前から治療を開始するとより有効であると言われています。

主な症状	治療薬
くしゃみ、鼻水	抗ヒスタミン薬 （エピナスチン、ザジテン） 化学伝達物質遊離抑制薬
鼻づまり	抗ロイコトリエン薬 （オノン、モンテルカスト） ステロイド点鼻薬 ※鼻づまりがひどい場合は次の薬を追加 ・点鼻用血管収縮薬 ・経口ステロイド薬

（ ）は当院採用薬

・抗原投機的免疫療法（減感作療法）

アレルギーの原因となる物質（アレルゲン）を少量から徐々に増やしながら投与する事で、身体をアレルゲンに慣らしていき、アレルギー症状を緩和する治療法です。

今までは注射による治療のみでしたが、2014年から内服薬（舌下投与）による治療が保険適応になりました。現在はスギ花粉症及びダニアレルギー（ハウスダスト）の薬があります。詳細については専門の医療機関にお尋ねください。

手術療法

レーザーや高周波電極を用いた治療や粘膜切除術などがあります。詳細については専門の医療機関にお尋ねください。

最も広く普及している対症療法は、花粉が飛び始める2週間くらい前から治療を開始する事が効果的と言われています。早めに対策をとってつらい季節を乗り越えて下さい。



定年退職によせて

奥山 猛 (事務長)

昭和55年4月に県職員に採用され、農政部から始まり37年間で14の所属で勤務させていただきました。その中でも病院関係が8年と一番長く、特に始良病院は経営課と総務課の3年、事務長としての2年というところで、通算で5年勤務させていただきました。そこで過去を振り返ってみて記憶に残っているのは、始良病院在職中に2回の大規模災害が発生したことです。平成23年3月11日午後2時46分東日本大震災が発生し、地震と津波で甚大な被害と多くの犠牲者が発生しました。厚生労働省と宮城県との依頼により、鹿児島県保健医療で甚大な被害と多くの犠牲者が発生した「このころのケアチーム」が組織され、始良病院から3月23日から6月26日の間に医師14人、看護師10人に参加してもらい、宮城県女川町を拠点に被災住民の診療や相談活動に当たっていただきました。我々はテレビや新聞報道でしか被災地の状況は見ることはできせんでしたが、過酷な状況の中で実際に現地に行かれた職員の方々にしかわからない本当に大変で辛い勤務だったろうと考えると胸が詰まる思いがしました。次には、まだ1年前のこととして熊本地震のことが脳裏に鮮明に焼き付いています。平成28年4月14日午後9時26分熊本地方震央とする前震があり、4月16日午前1時25分に再び本震と言われるものが発生、この一連の地震による倒壊した住宅の下敷きになったり、土砂崩れに巻き込まれるなどして多くの犠牲者が出ました。始良病院では、4月16日のうちに厚生労働省からのDPAT(災害派遣精神医療チーム)の出勤要請があり、山畑院長を中心に看護師、PSW、運転技師による5名のチームを編成し、4月17日から熊本の被災地での支援活動が始まりました。6月までの3ヶ月間で11チーム延べ27人の医療スタッフに携わっていただきました。私も極一部ではありますが、震災直後に物資の移送で熊本まで2回行きましたが、国道沿いの一部倒壊した家屋を目にしたことなど思い出されます。同じ九州の隣県として一日も早い復旧・復興を願っています。また病院独自の業務の関係で申しますと、医療観察病棟の開棟、地域交流センターのオープン、スーパー救急病棟の整備、デイケアの大規模化への取組などがありました。その他に病院機能評価でVer.6と3rdG:Ver.1.1の2回の受審や、県立病院中期事業計画で前期(H23~H27)と次期(H29~H33)の2回の計画作成に携わらせていただきました。以上述べた様々な出来事や取組のどれを取っても、職員の皆様の理解と積極的な参加・協力なしでは困難を乗り越え又達成できなかったらと思うと、心から深く感謝申し上げます。始良病院は、県内唯一の公立精神科病院として診療機能と併せて精神保健行政にも様々な形で貢献しその役割を担ってきていると思います。これから医療ニーズに覚えながら、良質な医療の提供を目指してさらに発展していかれることを祈念しています。長い間本当にありがとうございました。

上水流 育代 (1病棟)

「人生の旅路」

私の母は50年前に癌で終日を迎えた。台風や雪の中危篤状態と連絡があると夜中に何度も入院先の病院へ駆けつけた。若き看護婦さんが献身的にお世話して下さる光景が脳裏を離れることはありませんでした。15歳で看護の道を歩み始め、今振り返ると無我夢中でした。准看護婦として当時の鹿児島保健院へ入職。身内からは精神科ということで猛反対された。しかし、同級生から『親が心を病んでいる人の気持ちを分かってくれたい。頑張ってくれ』と励まされたことを記憶しています。当時1か月間マスターキーは渡されず、寮の出入りにも不自由なものでした。集団活動が盛んで、体力別に2グループに分け、病院周辺の山々や海岸へ散歩、キャンプや作業も盛んでした。農家育ちの私にとっては農業の手伝いから離れると喜びを覆す苦痛なものでした。また当時、産後断薬により拒食の方が入院されました。先輩看護婦さんから『食事介助をお願い』と言われ、どのようにしたらいいのかかわからず、側にいるだけでした。「あのね、ご飯に毒が入っているのよ。これを食べると死んでしまう。ほら、聴こえてくるでしょう」不思議な世界だと恐怖感でいっぱいでした。ただオーム返しすることしかできず、『子供さんの為にもご飯を食べられるようになってほしい』と言い続けていました。「じゃ、あなたが先に食べて毒が入っていないことを証明してよ」と、私にご飯を食べさせようと言われ、ついに食べてしまいました。『おいしいです』(当時は麦ごはん)「ほんと、おいしいの」一気に涙を流しながら食べ始められました。私がカギを所持できるようになって間もなく退院されました。神奈川の看護学校へ進学し、卒業後は富士山と湘南の海が見える足柄上病院へ就職しました。小児であれば診療科を問わず入院がありました。わずか1年で帰省。運よく再度県職員として試

験に合格し、入職できました。

転勤はつきもの。それをから10数年が過ぎ、外来勤務していた時に「育代ちゃんだよ。あん時は有難うねえ。ご飯を食べるきっかけになったのを覚えているよ」と両手を握りしめ涙を浮かべておられました。

家族がよい時期にと願いつつ、とうとうやってきたか大島病院への異動。赴任したばかりなのに後何日とカウントし、夜勤明けには『あやまる岬』に行き家族を思い涙していたこと。

人は、毎日色々な人と関わりながら、多くのことを経験し、学び取っていきます。職場の同僚、家族や友人、周りの人と話す中で、新しいことを知ったり、相手の良さに気付いたり、時には注意され自分の悪いところを反省したり、わたくし自身心も成長したように思えます。人との出会いを生かして生きていきたいと思っております。人との出会いは人生を歩んでいく上で大切なことだと思っております。これからも始良病院の発展を祈念いたします。

末吉 さなえ (5病棟)

私は昭和56年に入職させて戴いて36年。"ほおう、もうそんな経ったんだあ"とつぶやき、はるか遠くにあったはずの定年退職という紅白のゴールテープを目の前に、深呼吸をしている自分がいます。失敗や辛いことも数多くあったはずなのに、想い出はダイヤモンドのようにきらきらと蘇ってきます。初任地の鹿児島県保良院では、麦わら帽子・軍手・タオール・雨靴は必需品で、暑い日、寒い日広い農園で大根等引き抜き、洗い厨房に納入したり、また茶摘みなどの農作業に勤しみました。夏祭りや運動会、仮装大会、クリスマスパーティ、相撲大会、球技大会、歩こう会、愛宕山への散歩、岩剣神社への初詣、近くのお寺での座禅、ソーメン流し大会、バス旅行、高島屋での蘇る心作品展など、今ではびっくり仰天するほどの活動や行事がありました。患者様がいつもより楽しそうな表情で、口数や笑顔が多く見られたものです。病院の敷地では大規模な温泉の掘削や遺跡の発掘なども行われていました。H4年の全面改築に伴い始良病院という名称になりました。地域のニーズに応え認知症患者対象の老人病棟も開棟し5:00頃からオムツ交換に追われていました。

H12年に恐れていた転勤の順番がきて、場所も知らなかった北薩病院の辞令を貰いました。通勤用に必要だろうとジープ(バジェロミ二)と、初めて携帯電話を購入し気合を入れました。通勤距離が53Kmあり、1時間15分程要し、霧が濃かったり、道路が凍っていたりひやひやしながらの運転で伊佐方面に出掛けることがありますが、ここを毎日よく往復したものだ話しています。慣れない業務に処置や検査が多く忙しく動き回ることに、6月頃には足の裏に胼胝(タコ)が大5~6ケできて痛くて、自分で削って対処していました。公私共に色々御指導頂き当時のスタッフを思い浮かべ感謝しています。

H15年大島病院への転勤となり、長女は大阪への就職、二男は高校入学と入寮、自分の転勤準備と家中でんやわんやの大騒ぎで忙殺状態でした。転勤の発表がもつと早くあったらいいのに何思っちゃったことか・・・必要な荷物を積んだ軽トラで18:00乗船した時に、乗船の息をついて、やっとほっとして涙が頬を流れました。奄美大島のエメラルドグリーン的大海と、神々しい山並みと、厚い人情の方々の出会いの良き思い出が記憶にインプットされて、TVなどで奄美と聞いただけでその情景が浮かびます。一分の飛行機と船に乗りましたし、奄美復帰50周年のイベントにも遭遇しました。新型インフルエンザが韓国などで猛威を振るい、もし発生者がたら7階病棟に搬送されるとのことで対応訓練もしましたが、何事もなくて本当に良かったと、あの時の緊張を思い出します。

H18年に念願の始良病院に帰ってくることで嬉しかったです。発達障害や処遇困難の患者様もたくさんお見えの緑返しのよう疲れの弊もありませんが、再任用させて戴ける間、諦めることなく寄り添って成長を見守ります。素晴らしい上司や同僚、全てのスタッフの皆様にも深く感謝申し上げます。本当に有難うございました。最後に始良病院の益々の御発展と、皆様の御健勝を祈念申し上げます。



郡 広子 (5病棟)

本年度始良病院で定年退職を迎える事になりました。

昭和49年鹿屋病院に採用され、あれから43年の月日が経ちました。

トータルすると始良病院で31年間務めさせて頂き、精神科看護に携わってきました。

振り返ってみると、鹿児島県保良院時代は広い運動場や畑があり患者さんと一緒に野菜を作ったり、近くの重富海岸や岩剣神社まで歩いたり、霧島の高千穂登山など屋外の活動に多くの患者さんもお参加されていました。大変な事も沢山ありましたが患者さんの笑顔も忘れる事は出来ません。ナースキャップにスカートの白内容からキャップなしのパンツスタイルへ、紙カルテからパソコン導入、電子カルテへ、看護の内容も対象は病む人で基本的には変わりはないのですが、記録の方法など変わり時代の流れを感じます。

これまで沢山の方々と出会い、支えられご指導頂き無事に定年を迎えられる事になりました。健康で今日まで仕事が出来た事は私にとって最大の喜びです。長い間本当にありがとうございました。

最後に始良病院の益々のご発展をお祈り申し上げます。

“もの忘れ外来（予約制）”のご案内

1 目的

もの忘れでお困りの方、家族からもの忘れが病気ではないかと心配されている方等を対象に、医師による診療や専門職員による相談を行い、かかりつけ医へ紹介するなど、本人・ご家族の支援を目的として実施するものです。

2 実施内容

- ・毎週水曜日午後1時～ 1日2名までで、完全予約制です。
- ・事前に郵送します問診票を記入いただき、当日は詳しい聞き取りや検査（採血、頭部CT等）の後、医師による診察があります。

相談・予約窓口

鹿児島県立始良病院 地域医療連携室

電話 0995-65-3138

FAX 0995-65-8038



病院の理念 『やすらぎと幸せを』

病院の基本方針

- 1 本県における精神科医療の基幹病院としての役割を果たします。
- 2 患者さんの安全と人権に配慮したチーム医療を提供し、早期の地域移行・地域定着をめざします。
- 3 自己研鑽に努めるとともに、医療従事者の研修の場としての役割を果たし、精神科医療水準の向上をめざします。
- 4 公共性を確保するとともに、効率的な病院経営を行い経営安定化をめざします。

患者憲章

- 1 患者さんは、だれでも一人の人間として尊重され、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 2 患者さんは、病気や治療方針などについて、理解しやすい言葉や方法で説明を受ける権利があります。また、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 3 医療の課程で得られた患者さんの個人情報を守られます。
- 4 患者さんは、研究途上にある治療を受ける場合は、前もって治療内容について十分な説明を受ける権利があります。
- 5 患者さんは、病院内の他の患者さんの治療に支障を与えないよう配慮する責務があります。

鹿児島県立始良病院

〒899-5652 鹿児島県始良市平松6067

電話：0995-65-3138 FAX：0995-65-8044

ホームページアドレス URL <http://hospital.pref.kagoshima.jp/aira/>